

インターンシップ

2020. 1. 23

梁川高校の2年生は、1月に3日間のインターンシップを行う。12月5日（木）には1回目の事前指導があった。校長の話では、次のことを話した。

「就職活動はインターンシップから始まる」という言葉があります。インターンシップが就職活動だと思えば、服装、頭髪、あいさつ、言葉遣い、すべてにおいて、皆さんができるであろう最高レベルになるはずです。皆さんが行く14か所の事業所で、いい評判が聞かれるようになることを期待しています。

中には、アルバイトの経験がある人もいるでしょう。アルバイトと就職ではかなり違います。自分の人生にとって大事な就職へ向けての第一歩だと思ってインターンシップに臨んでください。

実は、この内容の前に、生徒を指導している。今までは我慢していたが、「このままではいかん」という思いから行動してしまった。生徒の様子を見てみると、とてもこれからインターンシップを行う集団とは思えなかった。私は遠慮して数分前に教室に行ったが、生徒は数人しかいない。校長である私が生徒を出迎える形になってしまった。席についても人の話を聞く雰囲気はない。さすがに生徒指導部長が全体指導をしてくれた。それでも気持ちはインターンシップへは向いていない。そこで、仕方なく冒頭で「スイッチが入っていない人がまだ3人います」と投げかけた。すると、場の雰囲気が変わった。その後は食いつくように、前のめりになって話を聞いていた。生徒は、スイッチさえ入れば、自分に必要な話だとわかれば聞く。

1月20日（月）には、最後の事前指導があった。校長の話は、以下のとおりである。

2年生の皆さんは、すでに心のスイッチが入っているようです。心の準備ができているようなので、私から特に話すことはありません。自分のためになるインターンシップ、梁川高校のためになるインターンシップにしてください。以上で終わります。

生徒はあつけにとられていたかもしれない。一番は進行役の教員が焦っていた。私の話が終わると同時に授業開始のチャイムが鳴った。12月5日とは別な集団になっていた。教員はいつでもどこでも話をするのが仕事だと思っているが、「話さない」指導のほうが効果的な場合もある。すでに心構えができるいる集団に、心構えの話をする必要はない。

私に続いて学年主任が話をした。「みなさんのこのような姿を見られるとは・・・」と涙ぐみながら話していた。もうこれで十分である。余計な事前指導はいらない。いつもよりも学年主任の話は短かった。これでよい。

今日までの3日間で2年生の生徒たちは、緊張、つらい、苦しい、わからない、うれしい、ありがたいなど密度の濃い経験をしてくれたことと思う。それはインターンシップの成果には間違いはない。しかし、私が考える今回のインターンシップの最大の成果は、2年生という集団がこの1か月で劇的に変わったことである。行く前から十分に成果が上がったといえる。

2年生には変わるきっかけが必要だった。まもなく3年生となるこの時期に、ちょうどいいタイミングだった。集団が変わるということは、生徒一人一人が変わるということである。真剣な表情の高校生は、凛々しくカッコいい。そのことを2年生に教えてもらった。